

会 議 録

会議の名称	第2回白岡市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時	平成27年8月11日（火） 18時 から 20時30分 まで
開催場所	白岡市保健福祉総合センター（はびすしらおか）会議室6・7
委員長等	委員長 佐々木 操 副委員長 熊坂敏彦
出席者（出席委員）の氏名・出席者数	熊坂敏彦、大橋 登、中村輝久、五十嵐泰子、西村恵子、佐々木 操、高橋純悦、高橋通禎、小林伸子、佐藤弘子、島村 隆、安藤貴徳、橋本正秀、石塚昭仁、岩上陽子、細井宣雄 ※出席者：16名
欠席者（欠席委員）の氏名・出席者数	なし ※欠席者： 0名
説明員の職・氏名	企画政策課創生戦略室 室長 白田 進、主幹 千葉智則、主査 濱田貴央
事務局職員の職・氏名	企画政策課長 八木橋昌美 企画政策課創生戦略室 室長 白田 進、主幹 千葉智則、主査 濱田貴央
その他会議出席者の職・氏名	白岡市 副市長 秋葉清一郎、総合政策部長 笠原英之 (株)ジャパンインターナショナル総合研究所 竹澤慎太郎
傍聴者数	3人
会議次第	別添のとおり
配布資料 等	資料1 市民アンケートの結果（速報値）について 資料2 人口ビジョンの骨子（案）について

発 言 者	発言内容・決定事項等
委員長	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p style="text-align: center;">～佐々木委員長より挨拶～</p>
副市長	<p style="text-align: center;">～秋葉副市長より挨拶～</p>
事務局（濱田）	<p>3 議題</p> <p>（1）市民アンケートの結果について （資料1について説明）</p>
委員長	<p>ただ今の説明について、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。</p>
○委員	<p>60歳以上の人の問題は、国から積極的に地域に来てもらってそこでやってもらうという方針が出ています。高齢者が今の地域の中でどのような生きがいを持っているか、どういうことを要求しているのかを聞く必要があると思いますので、独自にアンケートを分析する必要があると思います。</p>
事務局（白田）	<p>今回の集計は速報値で単純集計です。今後は、年齢別でクロス集計をして、分析した解析結果も反映させていきたいと思います。</p>
副委員長	<p>アンケート調査で、想定していたとおりの結果が出た面と、意外な結果が出た面があると思いますので、どの辺が意外でどの辺がそのとおりだったのかを知りたいと思います。</p> <p>私が意外に感じたのは、東京から引っ越してきた人、東京に出たがる人、転入・転出者が意外に多いということです。資料の17ページを見ると、県内から引っ越してきた人が一番多く、21ページの転出したい先も県内が一番多いです。</p> <p>白岡市は埼玉県下でもふじみ野市に次ぐ、あるいはふじみ野市よりも住みやすいまちなのに、他都市に行きたいという人はどこに行きたいのか、アンケートの設問にないようですが、大変興味があります。</p>
事務局（白田）	<p>アンケート方法ですが、県内の方の転入については、どこから来たかの回答を頂いていますので、今後、集計値に反映させていただきます。</p> <p>県内の転出についても転出先の市町村名を聞いていますので、今後の詳細な結果の中でお示しさせていただきます。</p>

<p>委員長</p> <p>事務局（千葉）</p>	<p>他に、ご意見はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、次へ進みます。</p> <p>議題（２）「人口ビジョンの骨子（案）について」、事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>（２）人口ビジョンの骨子（案）について （資料２について説明）</p>
<p>委員長</p>	<p>ただ今の説明について、お１人ずつ、ご意見ご質問等をお願いします。</p>
<p>A 委員</p>	<p>８月１日現在の白岡市の人口は、新白岡駅前のマンションの入居が始まったので、先月より 218 人増加しました。以前は、幸手市と 2,000 人以上差がありましたが、現在は 980 人で、いずれ抜くのではないかと期待しています。</p> <p>白岡市の人口が増えてきた要因は、昭和 40 年来の西地区の区画整理事業にはじまり、その後に野牛・高岩、現在は東部中央地区ということで、先人たちが早く事業を立ち上げてやってきた成果が市制施行となって現在も増え続けています。</p> <p>ただ、昭和 45 年、都市計画法施行当時の開発でできた東伸団地などは、非常に高齢化が進んでいますし、新白岡も早い勢いで高齢化が進んでいますので、人口はだいぶ減っているという気がします。</p> <p>幸手市も、公団の住宅ができて 1 万人ほど人口が増えて市になったのですが、高齢化で亡くなる人が増えています。</p> <p>白岡も産業団地ができて、大きな会社では正社員が 200 人、パートが 1,000 人という計画がありますが、東北線沿線は上野東京ラインが非常に便利ですし、圏央道のインターチェンジもあり、非常にポテンシャルの高い地域なので、企業誘致、さらに職住近接型のまちづくりが非常にいいと思います。</p> <p>宇都宮では、職住近接で UR が企業誘致と土地の販売も一緒にやるという事業を展開しています。白岡のポテンシャルの高さを生かした、よそから白岡に移り住んでいただく事業を積極的に展開して、いろいろ施策を打つことによって、人口が 4 万 6,000 人の白岡が、このまま発展し続けていくのではないかと思います。</p>
<p>B 委員</p>	<p>３つのシミュレーションを示していただいた中で、３番目のシミュレーションを使って今後のまちづくりを進めていくというお話は、非常にありがたいと思います。シミュレーション 3 で推移していけば、人口 4 万 6,000 人規模を維持できますので、今現在の白岡区域もしっかり定住して、発展していくと思います。</p> <p>職住近接で、白岡に住みながら白岡市内で仕事をするということは理想型だと思いますので、商工会の立場としても、行政と協力しながら、雇用していただけるような企業の誘致にも力を入れてまいりたいと思います。</p>
<p>C 委員</p>	<p>この会議に出て、難しくて大変だなというのが感想でした。今日の説明や事前に配布された資料では、文章的にはきちんシミュレーションされていますが、実</p>

<p>D 委員</p>	<p>際に実行できないことが多いのではないかと思いますので、それをみんなで話し合っ てやっていかなくてはいけないと思いました。</p> <p>また、子育ての観点から、どうして出生率が低いのか。アンケートの中に「育 児の心理的、肉体的不安に耐えられないから」とか、どういう子が生まれてくる か心配だということが載っていて、とてもショックを受けました。愛育会として は、子育てに関わるお母さんや子どもに向けて、これからそういう面でもいろい ろなことをやっていかなければいけないと思いました。</p> <p>これからも、この3つのシミュレーションの中でいろいろやっていけたら住み やすいまちになると思います。</p> <p>私は白岡で生まれ育って白岡を出たことがなく、他の地域に住んだことがあり ません。もし、私にアンケートが来たら、違う地域に行きたいかどうかを考えて みたのですが、やはり白岡がいいと思っています。</p> <p>小中学校の役員を長く経験していて、いろいろな保護者と話す機会があります。 他の場所から転入して来られたお母様と話をする際に、なぜ白岡なのかを毎回質 問しているのですが、このアンケートの結果どおり、利便性がいい、価格的にリ ーズナブルである、実際に来てみて白岡の雰囲気良かったという意見がほとん どでした。私が白岡にずっと住んでいるのもそういうことなのだと思います。</p> <p>私は子どもが多い世代に生まれ育ったので、何もしなければ白岡の人口がこん なに減ってしまうというのはショックでした。このような会に参加して、少しで もそれを食い止める何かができればと思いました。</p> <p>私の同級生は、結婚して他県に出ても、なぜか旦那さんを連れて戻ってきて、 家を建てて住む方が多いのです。いったん出たけれども、やはり白岡がいいとい う方が多いのかなというのが経験上ありますので、そういう方の意見も取り入れ ると、人口減少を食い止める手段になるかもしれないと思います。</p>
<p>F 委員</p>	<p>私は青森生まれで、東京の大学を卒業後、青森で農業高校に勤めていました。 農業の観点から言うと、日本一の消費県が隣にあるので、青森と比べて埼玉県ほ ど恵まれた土地はないと思っていましたが、実際埼玉に来て、白岡で農業をやる ようになって、田舎で東京に近いので有利だと思っていたけれど、案外そうでも ありませんでした。</p> <p>埼玉県で何が一番採れているかとか、何が欲しいのか、PRができていないの です。地方は、名前が売れなければいくらいいものを作っても売れないので、ブ ランド化などでPRにすごく力を入れます。</p> <p>私が住んでいた地域は、バラ日本一、長芋日本一です。</p> <p>青森県のバラは、温度差によってきれいな色に咲くので、全国的に有名になり ました。私もそのプロジェクトに参加したのですが、大田市場に何回も通って、 他とは色が違うということや長持ちするということをものすごくPRしたからで す。それが埼玉県にはないのです。東京に白岡のアンテナショップはないし、何 も発信できていないのは、非常に残念だと思っていました。</p>

何年か前、白岡市は梨の生産量が埼玉県で1位だったのですが、梨を作っていた人しか知りませんでした。今は3～4位ですが、白岡の梨は非常においしくて、人気が高く、全国で1位の千葉県の梨と比べても、白岡市のほうが断然おいしいです。市花でもある梨なのに、PRできていないとすごく感じています。

「なしべえ」が出てきた年に、「なしべえ」のマークを梨の箱に印刷して市をPRしようと思ったら、待ってくれと言われました。これだけ都市に近いので、白岡の農業をもっとPRして、イベントに呼んでもらったりできたらいいと思っています。

白岡に来て13年目で、仲間内でイベントをしたいと話していますが、農家の人たちはイベントを持てるだけの行動力や知識がありません。埼玉県では後継者不足と言われていますが、白岡市では、梨農家8件の中で、20代～30代の後継者が毎年増えています。そういう若い後継者をうまく生かすためには、宣伝して、もうける農業をして、人とのつながりができると、非常に面白くなるのです。

数年前から、味彩センターの消費者と梨狩りなどの交流会をやっていますが、農家のおやじは一匹狼で、話し下手で、交流や宣伝ができないし、農協がやってくれる時代ではないので個人でやらなければいけません。PRについて書かれています、現実を考えると不可能に近いのです。この中には理想と現実が出ていて、これを全てやろうとすると成功しないのではないかと思います。白岡市は何をメインとして考えるか、1つのことでもいいので、それを伸ばす形を取っていけば、自然に人は増えると思います。

東京への通勤圏内で、電車1本で行けますが、電車だけで大きな商業施設がない。工業施設と駅周辺の商店街だけではバスも走らない。市でバスが走らない所はあまりないと思います。外へはもちろんですが、市の中に白岡市のイメージアップをPRする体制を作れば、自然にもっと盛り上がるのではないかと思います。

G委員

企業の採用の立場から話しますと、白岡の企業ですと言っても、東京の学生はほとんど知りません。知っているという学生は、埼玉県内の学生や埼玉出身で都内の大学に通っている学生で、興味を示してもらって企業の内容を聞いてもらえるという形です。

社会増の話ですが、白岡から学校に通えるように、駅の近くのアパートを優先的に、都内よりも安い環境をつくり学生が市外に出ていかないような取り組みができれば、地元に残る学生が多くなるのではないかと思います。

企業誘致については、市町や県が一緒になってかなり大きくやられていますが、この辺では日本工業大学や芝浦工業大学の学生が残るために、企業と大学がコラボレーションして仕掛ける取り組みをされるという話を聞いていますので、まとも一緒になってできることがあればいいと思います。

会社の近くの、大山小学校の保護者と話す機会があったのですが、全児童は70～80人で1学年が10人くらい、3年生は8人しかいないそうです。同じ白岡市でも、地域によって人口が減少し、増加をしている所があるというのを肌で感じました。また、子どもたちが安心して遊べる場所がないと言われていたので、その

<p>H 委員</p>	<p>辺が「若い人が子育てをしたくなるまち」というところで、1つのヒントになるのではないかと思いました。お金をかける必要はなくて、子どもが集まって安心して遊べる場所を提供するだけでもいいと思います。</p> <p>あと、唯一PRできるというと失礼ですが、白岡祭りが今年なかったのはすごく残念で、一企業として、何としても残していただければと思います。</p> <p>まずは、この場をお借りしまして、本校の野球部が準優勝し、市長をはじめ、白岡市のたくさんの方に応援いただき、ありがとうございました。最後まで頑張る姿を見せられたこと、白岡の名前を知っていただけたということで、市のイメージアップとPRに、少しはお役に立てたと思っています。</p> <p>私は着任して、県立白岡高校というよりは白岡市立白岡高校のように感じています。というのは、市P連の方や愛育会の方など、まちぐるみで、自分たち市民の目で自分たちの子どもを育てようという雰囲気があるまちだからです。</p> <p>学警連で小中学校の校長先生方と話をする、白岡は近隣の市町村に比べて、非行がなくて落ち着いているので、教育の環境が整っている。小さいころからまちぐるみで子どもを育てる、義務教育が非常も落ち着いてできるということだけ取ってみても、「子育てするなら白岡」というPRはできると思いました。</p> <p>白岡高校もそういうお子さんをたくさん預らせていただいて、野球部だけでなく、吹奏楽部も西関東大会に進み、文武両道で頑張らせていただいています。</p> <p>私自身のことを考えても、子どもが小学校1年生に上がるまでに家を買って、そこでしっかり定住したいという思いがありましたので、「教育するなら、子育てするなら白岡市」、「家を建てるなら白岡市」みたいな2点セットでいくと、出生率の向上もできるのではないかと思います。</p>
<p>I 委員</p>	<p>私は川口から通っているのですが、白岡の駅に降りたときに、駅前に何もないというイメージが強かったです。駅前開発や道路整備など考えていることは認識していますが、買い物や食事をする場所がなくて、昼食を買いに車で出ないと手に入らない状況もあります。</p> <p>転出の抑制と言われる中、アンケートの中で、持ち家の方が63%、次に賃貸住宅の方が21%というところを捉えると、賃貸の方はいつでも転居できると考えられます。また、「ほかの場所に転居したい」理由では、「ふだんの買い物が不便」「飲食・娯楽に不便」という意見が出ています。</p> <p>市が考える「歴史・文化を活かした公共施設の整備」や「愛着が持てる環境の整備」も必要と思いますが、空き店舗や空き地・空き家の増加や商店街の衰退も始まっていますので、それらの活用も含めて、蒲田のようにスーパーや食事ができるお店をつくったり、農業の減少のための遊休地も含めた民間と連携した活用も積極的にされる必要があるのではないかと、銀行の立場からも提言します。</p> <p>先ほど「なしべえ」の話がありましたが、グッズも作っていますし、ふるさと納税でも梨をたくさんアピールして返礼品にもなっています。キャラクターの「なしべえ」「なしりん」の箱を使っている梨農家があれば、私もそこに頼んでみたい</p>

<p>J 委員</p>	<p>という気はしますので、地道なところから、少しずつ変わっていければと思いますし、銀行としても精いっぱい努力させていただきたいと思います。</p> <p>私はいろいろな自治体を存じ上げていますが、14 ページの人口のシミュレーションの内容だけを見ると、短期的に人口を増やすには大橋委員がおっしゃった内容がベターだと思います。定住人口を増やすのであれば、住む所の確保がなければ駄目だと思います。企業誘致で、ホンダのような大きな企業を誘致したとしても、仕事が増えて就職活動はしやすくなるけれど、人口は増えないのです。人口を増やす対策として、空き家を調べて大学生に貸して、まちの良さをPRできれば、定着してくれるかもしれないし、地方からの学生が来てくれるかもしれません。日光などでもやっていますが、それでよければタイアップできると思います。</p> <p>報告書の57 ページを見ると、今の市民の方は住みやすいと言っていて、その基準は「自然の豊かさ」や「治安がいい」です。それで人を増やそうと考えると、自然が豊かで、自然を利用したまちづくりを進めますというPRになるとは思います。急激な人口増加は望めないということになるとは思います。</p> <p>出生率を上げて0歳児を増やすとなると、就学して卒業して就職するまでには20年以上時間がかかるので、その間の経済的なことは女性に聞くのが1番です。子育て関係をよくするためには、女性の意見をもっとたくさん取り入れなければいけません。転勤の際は、買い物の不便な所へは行きたくないということもあるようです。</p> <p>白岡市で求人を出している企業はありますが、大企業は交代勤務で、交代勤務は大変なので行ってくれる人がいないのです。大企業の誘致より、どうやったらまちの商店街を活性化できるのかというほうが肝心ではないかと思います。大企業を誘致すると、間違いなく一気に人口は増えますが、その後だんだん尻すぼみになってくるとい実情を皆さんにお知らせしたほうがいいかと思いました。</p> <p>空き家が多いなら空き家対策をやればいいのです。幸手市はやっていますが、集まらないのです。家賃をやみくもに下げて人を集めればいいのかという問題と、税収の問題も絡んできます。もう1つは、生活弱者と言われる方たちは、例えば、保護費が高い所や自治体のサービスがいい所にすぐに転居します。皆さんは、ただ単純に人口を増やせばいいのですかと、私は言いたいのです。できれば、白岡市と同じような自治体にどなたか派遣して、聞いてくるのもいいと思います。「白岡市は安全で安心なまちづくりだ」と、今住んでいる方たちは言っています。それをPRできる何かがあれば、他の自治体に負けない何かがあると思います。</p>
<p>K 委員</p>	<p>利根地域管内は9市町がありますが、合計特殊出生率が1.13で、県内でも非常に低く、比企地域と同じ水準です。県の平均が1.33で、白岡は1.41なので利根管内ではかなり高いです。また、これから圏央道が繋がるといった立地上の優位性もあり、産業分類に製造業、卸売業・小売業、医療・福祉が多いという話でしたが、管内では運輸業もかなり高いので、これから伸びてくると思います。</p> <p>シミュレーション1、2、3で、移動人口が今後も同様に続くとして、年間200</p>

	<p>人程度が増えていくという推計をされていると思いますが、いいシミュレーションを取って人口置換水準 2.07 で社会増があったとしても、シミュレーションの中でも実際には増加をしないので、人口は減っていくということだと思います。</p> <p>「今後の基本的視点」の中に理想的なことが書いてありますが、今の人口が減少していくというシミュレーションが出てくるところで、「定住人口の増加」のところに公共施設等の整備推進の話も出てきていますが、管内の宮代町はコンパクトシティということで施設を廃止しています。</p> <p>全国的に見れば、コンパクトシティとは、住所を移動する形で市街地に集約していく話だと思いますが、実際に人口が減っていくとなった場合、公共施設のあり方も考えたほうが良いと思います。</p> <p>白岡市で人口が多いのは、白岡駅と新白岡駅周辺と特徴的な形をしているので、コンパクトシティの考え方についてどうやっていくかという選択も必要ではないかと思いました。</p>
L 委員	<p>私は、20 年前に白岡市に越してまいりましたが、法定外の一般会計からの国の税金が少ないとか、高齢者が多く医療費がかかっている関係で国民健康保険が非常に高いと言われていて、下から数えたほうが早いということです。また、救急医療の医療機関が、県西の川越の 1 か所しかないので、救急車に收容されている方の待機時間が非常に長いなど、これらは定住率の低下につながると思います。</p>
M 委員	<p>まず 1 点目、この施策をするにあたっての財源をどのように考えられているのか。お金がないと何事もできませんし、財源は皆さまから集めた貴重なお金なので、それをより効率的に使って、どのように少子化対策やまちづくりに役立つのか、数字の面から具体的に出していただければより分かりやすいと思います。</p> <p>もう 1 点は、東京の出生率は 1.03 で全国最低ですが、流入人口が多いから 1,400 万人という都市で、財源は困らないという現状を考えれば、少子化対策をするにあたってお金が必要なので、白岡に住んでいただいて住民税を取るという施策も大事です。そのために、女性に住みやすいまちを心掛けるべきではないかとか、独身世代の人たちがより住みやすい場所にするとか、駅近くに宿舎を建てるといったこともいいと思います。若い人がいいまちだと思えば、自然に地元意識が芽生え、そこで家庭を築きコミュニティをつくるということを周りの人に伝えてくれると思います。そういう施策も視野に入れてやっていただきたいと思います。</p> <p>具体的な施策については、成功しているまちと失敗しているまちから学びたいという意見があります。成功しているまちと同じことをしたくなるのが心情ですが、失敗の中から学べることは多いと思うので、失敗をしている自治体の失敗を白岡でどうすればうまくできるかという意見交換ができれば、白岡がより良くなるための礎、基礎体力をつくるということで話せると思います。</p>
N 委員	<p>そもそもなぜ人口を増やしたいのかが、漠然としていて、この資料の中から読み取れませんでした。例えば、「地域経済社会の維持が重大な局面を迎える可能性</p>

がある」というのは何かというところです。

増やす目的次第では、必要な人口の層やそれに対する打ち手が決まってない。あるいは、資源が限られているのであれば、全部を一気にはできない事案と思うので優先順位を決めるということ。

生産年齢人口がなぜ必要かを、具体的に、市民にも分かりやすくアピールすることで、市民を巻き込んで定着していくとか、呼び込むアピールにもつながると思います。メリットやデメリットに対して、市はこういう施策を打っていくので安心してほしいというところまでやるのも一つだと思います。

そこで、なぜ人口を増やしたいかを、もう一度考えていただきたいと思います。

14ページの「基本的視点」は、私も納得していますが、「転出の抑制」の(1)の公共施設の整備、また(2)のPRで本当に転出が抑制できるのかはもう一度考えて、場合によっては、他の打ち手が必要ではないかと思います。1つのやり方として、アンケートで転出の理由として、交通の便、仕事が遠い、買い物の利便性が出てきていますので、ここに対するギャップを埋めれば良いと思います。

転出の抑制については、今いる高齢の方にプラスして入って来た人たちも年をとっていきます。46~47ページの60歳以上の方が多く答えているアンケートの「行政サービスがよい」が低い数字で、「老後の生活には向かない」が高いというところに対してきちんと対応していく必要があると捉えています。そのように、まずこれをやると決めた中から、さらに先のことまで考えてやっていかないと、転出を防ぐのに時間がかかると思います。

逆の考え方として、生産年齢人口を増やすために回転率をアップするということで、働き盛りの人たちが入ってきて、引退するまでいてもらえるような施策を打つというのも一つだと思いますが、それが本当に人口を増加する目的に合っているのかどうかです。そうでなければ、これから高齢者が増えることは間違いないので、そこに対する打ち手も考えた上でやっていくことが必須だと思います。

高齢者の雇用も大事です。育児をしているママさんは、保育園に入れたいけれど数が少ない。都心部では、おじいちゃん、おばあちゃんが小さいお子さんを預かる保育施設みたいなところを安いお給料でやっています。核家族化の中でお年寄りと触れ合うことで、お子さんの優しい心を育てるというメリットもありますので、そういうことを検討し、介護とか暮らしやすさなど、高齢者独特の悩みを摘み取ってあげないと、いずれは転出してしまって、いい社会はできないのではないかと思います。私は東京に勤めていますので、親が亡くなった後、このままの白岡だと間違いなく、私は出て行くと思います。そこを防いでいきたいというところで各項目を申し上げました。

○委員

以前、埼玉労連に務めていて、東管内で市との交渉や話し合いをしていましたので職員の苦労は分かります。その中で、定住人口の増加は社会保障制度の充実に尽きると思います。

小児医療センターが移転すると、県北関係で小児医療機関は、山王クリニックだけになるので、そこを中心とした医療体制。当然、そこでどれだけ子どもを診

てもらうか。医療制度を改革していき、山王クリニックに対してどういうことができるのか。そこに付随するネットワークをどうするのかというのが1つです。

国で言われているCCRCですが、よくテレビで歳を取ったら田舎で農業をやるとか出ています。ここに来る途中の梨屋さんでは、梨を買う車が5～6台並んでいます。反面、上野田で梨畑がなくなっているように、市内には休耕地もあるので、CCRCに基づいて都市部から退職金や年金などお金を持っているお年寄り呼び込むと、金融機関でもプラスになると思います。そういう意味で、「最後のみとり」までしてくれる施設をつくっていく形で、ゆりかごから墓場までの医療環境をつくることによって、定住人口の増加よりも、まず逃がさないことが必要ではないかと思います。人を増やしていく中で、二世帯、三世帯住宅など、祖父母がすぐそばにいるというところで、教育の面でもいいことが生まれてくると思います。

住み続けられる市をつくっていくためには、地産地消が必要で、都市部から来た人たちに休耕地を利用していただき第六次産業をつくる。そして、2、3カ所、道の駅をつくって、周辺の農家が道の駅へ持ち寄る。NPO法人や一般社団法人の形でやれば、会員ならば営業内容まで全部分かりますし、122号、高速道路、御成街道、さいたま栗橋線の4本の道が縦に走っているので、それぞれの所での第六次産業ができると思います。

もう1つはICTの活用です。市民の方の参加の形でのネットの効力はあると思いますが、この地域はインターネットが使える図書館がなく、インターネットの環境を整えられない人もいますので、お年寄りでも、どこでもインターネットを活用できるようにする必要があるのではないかと思います。この問題も、継続した考え方が必要だと思います。大型店舗ができて商店街がシャッター通りになっていますので、地元の商店街をどう生かすかという点でもやらなければいけないと思いました。

委員長

委員の皆さまから貴重なご意見、ご提言を頂きまして、誠にありがとうございました。

副委員長よりまとめをお願いします。

副委員長

白岡で生まれ育った方の意見、よそ者の目で白岡を見たときのマイナス面・プラス面、本当に人口増だけを目標にしているのかという本質的な議論もあって、いろいろな問題が浮き彫りにされたと思いますので、事務局のほうで取り込みながら、もう一度議論してみたいと思いました。

私の意見ですが、もう一度人口ビジョンをするときにアンケート結果の分析を生かし、次回議論をした上で総合戦略に反映していきたいというのが1つです。

2番目に白岡の人口ビジョンの作り方ですが、社人研が出した推計のシミュレーション1は、最も悲観的なケースということで認識する。シミュレーション2、3で、合計特殊出生率を平成52年に2.07にするために、1.40から1.60、1.70、1.80と上げていくのですが、本当に現実的なのかというのがあります。

	<p>今、合計特殊出生率が日本で一番高いのは沖縄県で1.9、一番低いのは東京都で1.09、埼玉県は下から4番目で1.2です。埼玉県は白岡市も含めて東京圏なので、合計特殊出生率ががんがん上がっていくという前提はどうか。シミュレーション2、3は同じ前提になっているので、前提の置き方は、むしろほどほどに上げるけれど、社会的な流入人口がどんどん増えていくということでも構わないと思います。悲観ケースがシミュレーション1で、楽観ケースがシミュレーション3だとすれば、50年～60年先のことなので、もっとも現実的というのではないかもしれません。だから、市として、中間値を努力目標として一番近づけたいというのがシミュレーション2という位置付け方をしたのかと考えました。</p> <p>3番目の意見は、人口減の影響は国も白岡市も深刻に受け止めなければいけないというのはいいと思いますが、「人口減少が市の地域社会に与える影響」を、昔の過疎地帯のように全校で10名、20名という学校が出てくるというふうに、市民の皆さんにもっと分かりやすく具体的な数字で説明して、白岡は東京圏だから安心ということではないという危機感を共有しないと、いい考えや行動は出てこないと思います。さらに、白岡は東京圏の中の1つということで、青森や福島と比べると恵まれていると思いますし、東京のベッドタウンという位置付けはプラス面です。しかし、白岡市にとっては埼玉県内、あるいは首都圏間の都市間競争に勝てるかがポイントで、出生率や高齢者の近住率など、県内での白岡市の序列をきちんと認識して、定住人口や出生率などの目標を達成するために、強みを強化していく施策をみんなで議論することが必要だと思います。</p> <p>今日、それぞれの立場から非常に貴重な意見が出されたので、それらを踏まえた上で議論をすると、いい人口ビジョンや総合戦略ができると思います。</p>
企画政策課長	<p>アンケート調査や骨子案をいろいろな視点や見方で読み込み、ご意見を頂いて、教育、治安などについて漠然と思っていた部分をさらに伸ばし、欠落していた部分への対策というポイントも増えました。また、皆さんに本気になっていただくために、現状を市民や団体、事業者に分かりやすく知らせる工夫も必要だと思いました。財源については、先々人口が減れば限られてきます。行政がやるべき部分と、事業者、市民がやるべき部分の整理をするためにも、理解してもらえないような説明が必要だと感じました。そういった財源の不安な部分は、行政もしっかり考えて進めていかなければいけないと思います。頂いたご意見を踏まえ、今日の資料に加えながら臨んでいきたいと思いますので、よろしく願います。</p>
委員長	<p>次に、(3)「その他」、事務局から何かございますか。</p>
事務局	<p>(3) その他 特になし。</p>
委員長	<p>事務局からはないようです。委員の皆さまから、何かご意見はございますか。よろしいですか。それでは以上で、本日の議事は全て終了しました。</p>

事務局（濱田）	<p>これをもって、議長の職を解かせていただきます。</p> <p>最後に事務局からの事務連絡です。</p> <p>次回、第3回まち・ひと・しごと創生有識者会議は、9月15日火曜日、午後6時から、はびすしらか会議室6・7で開催予定です。</p> <p>詳細は後日郵送で通知いたしますので、ご確認をお願いします。</p>
副委員長	<p>4 閉会</p> <p>これをもちまして、第2回白岡市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了いたします。</p>